

未定稿 3月19日

「固定資本減耗」理解の 重要性を考える

2010年 3月23日

経済情報処理ワークショップ

富山大学 経済学部

小柳津英知

問題意識(1)

1. 「固定資本減耗」はSNAの所得勘定に登場する。その意味について（参考書など）経済学の入門段階(?)では、詳しい意味・定義の説明なし。
2. 「固定資本減耗」は企業会計の「減価償却費」に該当する、とか、資本設備の利用に伴う磨耗分の価値にあたる、で終る場合が多い。
3. 私もそのような簡単な説明で済ませた結果、「固定資本減耗」が三面等価の所得面に登場することを理解できない履修者が多かった。

問題意識(2)

1. 実は「減価償却」という概念をもともと理解していない(学んでいない)履修者が大半で、様々な償却手続きがある事、その意義も知らなかった。
2. 「減価償却費」は会計上の費用、つまり‘非現金支出’である事を理解しないと、所得面(分配面)に登場する理由が全くわからない。
3. 「固定資本減耗」の扱いは奥が深く、用語の理解を通じて、会計の仕組み、定義の理解の重要性を学ぶ事が大切ではないだろうか(私も含めて)。

本報告の構成

1. 93SNAにおける「固定資本減耗」の定義
2. 入門テキスト等における「固定資本減耗」の説明例
3. 上記の説明の特徴（批判ではない）
4. 「固定資本減耗」を通して学ぶべき事
5. 現実のマクロ分析上の疑問点（授業とは別）
6. 参考文献

1. 固定資本減耗(93SNA)の定義と変更点

(1) 固定資本減耗の内訳

- 「減価償却費」+「資本偶発損」(火災、風水害等の偶発事故による損失)

(2) 93SNAにおける固定資本減耗に係わる変更点

- 企業の受注ソフトウェア(無形固定資産)等をそれまでの中間投入から固定資本形成に計上。
- 一般政府の保有する社会資本ストックについて固定資本減耗を計上。
 - 例: 道路、ダムに有限の耐用年数
- 調整勘定の細分化
 - 『その他の資産量変動勘定』+『再評価勘定』+『その他』

2. 入門テキスト 固定資本減耗の説明例

テキスト名	説明箇所	説明文
『経済指標のかんどころ』 2006年	GDP(国内総生産) 143頁	～なお、固定資本減耗は会計上の減価償却費にあたるが、現実には生産者の手許に残るため、貯蓄とみなすことができる。
『マクロ経済学・入門第3版』福田慎一・照山博司著 有斐閣アルマ 2005年	国内純生産(NDP)5頁	機械や建物等の資本ストックは使用すれば必ず磨耗するので、それを表す固定資本減耗の分を取り除くことによって生産の過大評価を防ごうというのである。
『有斐閣 経済辞典第4版』	固定資本減耗 consumption of fixed capital	構築物，設備，機械など再生産可能な有形固定資産について，通常の摩損および損傷，予見される滅失，通常生じる程度の事故による損害等からくる減耗分を評価した額であり，有形固定資産を代替するための費用として総生産の一部を構成する。

3. テキストの説明の特徴(批判ではない)

- 「資本偶発損」という用語に言及がない。
- ‘陳腐化’の概念について明確でない。
- 「減価償却費」は会計上の費用であり、非現金支出であることの明確な説明がない。
- SNAの「固定資本減耗」が、実際の企業会計の「減価償却費」の集計量であるかのような誤解を与える。

3. テキストの説明の課題(2)

「企業会計における『減価償却』のほとんどは取得価格を用いて算出されるため、SNAにおける『固定資本減耗』とはまったく異なる概念であることに留意する必要がある」

(「OECDマニュアルのポイント」より)

という指摘もある。私は、まったく異なる、という表現には抵抗を感じる。日本のSNAはずっと取得原価利用。

取得価格(簿価)と再調達価格(時価)まで、入門の段階で学ぶべきかどうかは悩ましい。

4. 固定資本減耗を通して学ぶべき事

1. 企業会計における「減価償却」の仕組み（非現金支出）と意義を理解する。
2. 特に技術革新に伴う固定資本の‘陳腐化’について理解する。（物的耐用年数より、経済的耐用年数の方が経済学においては重要ではないか？）
3. 「固定資本減耗」の正しい定義と正確な把握の困難さを1、2からを理解する。
4. それによって、なぜNDPでなくGDPが主に用いられているかも明らかになる。

5. 現実のマクロ経済分析上の疑問点 (授業とは別)

- IT分野では「陳腐化」のスピードが著しい。「陳腐化」の水準をSNA作成当局はどう捉えているのであろうか？
- 一方で、製造業によっては、とうに償却を終えた設備がまだ高い生産性を維持し稼働している例もある。償却完了≠除却の例は少なくないのではないか。
- こうした固定資本の多様性をマクロの生産関数はどう解釈・解決しているのか？

まとめ(反省点など)

- 私自身、企業会計(実務)の世界に長くいたため、SNAとの関係にやや混乱気味であった。
- しっかり過去の制度変更、議論を整理して、理解を深めたいと考えている。
- 基礎的な考え方をきちんと理解できるように授業でも工夫して、履修者の方の満足度が上がるように努力していきたい。

参考文献

- 「OECDマニュアルのポイント」（下記の日本語要約版、ネットで公開されています。）
- OECD(2001) “*Measuring Capital OECD Manual – Measurement of Capital Stocks, Consumption of Fixed Capital and Capital Services.*”
- 大住 荘四郎『国民経済計算で読む日本経済』 日本評論社 1998年
- 中村 洋一 『SNA統計入門』 日本経済新聞社 1999年
- 浜田 浩児 『93SNAの基礎』 東洋経済新報社 2001年
- 作間 逸雄[編] 『SNAがわかる経済統計学』 有斐閣アルマ 2003年
- 増田 宗人 「資本ストック統計の見方」 日本銀行調査統計局 Working Paper Series 00-5 2000年